

令和2年度 長岡市一般廃棄物処理実施計画と実績

1 令和2年度の取り組み（令和2年度 長岡市一般廃棄物処理実施計画 一部抜粋）

（1）排出抑制

ア 家庭ごみの一部有料化

燃やすごみ、燃やさないごみ、生ごみは指定袋で、粗大ごみは処理券シールの貼付により有料収集し、分別の徹底を推進。

イ 家庭用生ごみ処理器（堆肥化容器）の購入費補助

生ごみを堆肥化する容器の購入費を補助し、家庭での生ごみの減量と資源化を支援。

ウ 生ごみの水切りの励行

生ごみは水分を多く含むことから、水切りの徹底を広報紙や市政出前講座などで周知。

エ 枝葉・草の自家処理の励行

枝葉・草は、身近な大地への還元を広報紙や市政出前講座などで周知。

オ 事業所ごみの減量化の促進

事業用大規模建築物の所有者から減量計画書等の提出を求める。

事業所用指定袋への事業所名の記載を徹底し、排出者責任を明確にする。

カ マイバック運動等の推進

レジ袋や紙袋、びん・缶・ペットボトルの排出を抑制するため、マイバック運動やマイボトル運動の普及を図るとともに、簡易包装製品の普及や購入の推奨、リサイクルショップやフリーマーケットの活用促進を図る。

キ 食品ロス

食品の食べ切り、使い切り等の励行を広報紙や市政出前講座などで周知。

（2）再使用・再資源化

ア 生ごみを、生ごみバイオガス発電センターで有効活用

生ごみは、生ごみバイオガス発電センターで発酵・分解し、発生するバイオガスを発電等に利用。

イ 枝葉・草の資源化の推進

収集した枝葉・草は、培養土・有機肥料の原料のほか、発電用燃料とする。

ウ 資源回収奨励金交付事業の実施

古紙類や金属類を集団回収した子供会等に、資源回収奨励金を交付し、資源化を推進

エ 資源物の拠点回収の実施

常設拠点と山古志、小国、与板、川口地域にサテライト拠点を設置し、リユースびん、古着・古布、食器類、小型家電、びん・缶・ペットボトル、古紙類（新聞、雑誌・チラシ、段ボール）、使用済み天ぷら油、靴、かばん・ベルト、ミックスペーパーの排出の機会を増やし、ごみの減量と資源化を推進。

2 計画収集及び直接搬入

| 区分 | | 収集運搬計画 | | | |
|-------|------------------------|----------|----------|----------|-----------------------|
| | | 収集 主体 | 収集方式 | 収集 回数 | 収集量 |
| ごみ | 燃やすごみ (うち生ごみの発酵不適物) | 委託 | ステーション方式 | 週 1 回 | 52,690 t (3,660 t) |
| | | 許可 | 戸別 | 随時 | |
| | | 排出 者 | — | | |
| | 燃やさないごみ | 委託 | ステーション方式 | 月 2 回 | 4,240 t |
| | | 排出 者 | — | 随時 | |
| | 粗大ごみ | 委託 | 各戸 | 随時 | 1,200 t |
| | | 排出 者 | | | |
| | 生ごみ | 委託 | ステーション方式 | 週 2 回 | 9,560 t |
| | | 許可 | 戸別 | 随時 | |
| | | 排出 者 | — | | |
| 資源物 | びん・缶・ペットボトル | 委託 | ステーション方式 | 週 1 回 | 3,550 t |
| | プラスチック容器包装材 | 委託 | ステーション方式 | 週 1 回 | 3,760 t |
| | 古紙 | 委託 | ステーション方式 | 月 2 回 | 5,550 t |
| | 枝葉・草 | 委託 | ステーション方式 | 週 1 回 | 3,950 t |
| | | | | 月 2 回 | |
| | | | 拠点回収方式 | 指定日 | |
| | 古着・古布 | 委託 | ステーション方式 | 月 2 回 | 270 t |
| 有害危険物 | 委託 | ステーション方式 | 月 2 回 | 70 t | |